



東京都へき地医療支援機構通信

令和5年度 春号 (第10号)
【編集・発行】 東京都へき地医療支援機構



東京都の島しょ地域(伊豆諸島・小笠原諸島)には、碧い海に囲まれた、大小合わせて 11 の有人離島があります。島ごとに異なる自然や文化があり、魅力多彩です。今号では、そんな島しょ地域のうち、小笠原諸島にある公立医療機関をご紹介します。また、小笠原の父島・母島の医療従事者の皆さんから仕事や島での生活についてお聞きしましたので、ぜひご覧ください。
(インタビュー記事中の所属や内容は取材当時(令和4年 11 月)のものです。)

小笠原諸島エリア 小笠原村 父島・母島

東京から約 1,000km 南に離れた広大な海域に大小 30 余りの島々が散在する小笠原諸島。一般住民が暮らしている父島と母島には空港がなく、本土との交通は、竹芝桟橋との間に概ね週 1 便運航している定期船「おがさわら丸」のみ。太平洋の大海原に浮かぶ小笠原諸島には、独自の進化を遂げた固有の動植物が多く、またクジラやイルカをはじめ多くの海洋生物も生息している自然豊かな地域で、ユネスコの世界自然遺産に登録されています。
「島寿司」や「アカバの味噌汁」等の郷土料理の他、パッションフルーツなどの南国らしいフルーツの数々も人気です。

★東京から島へのアクセス★

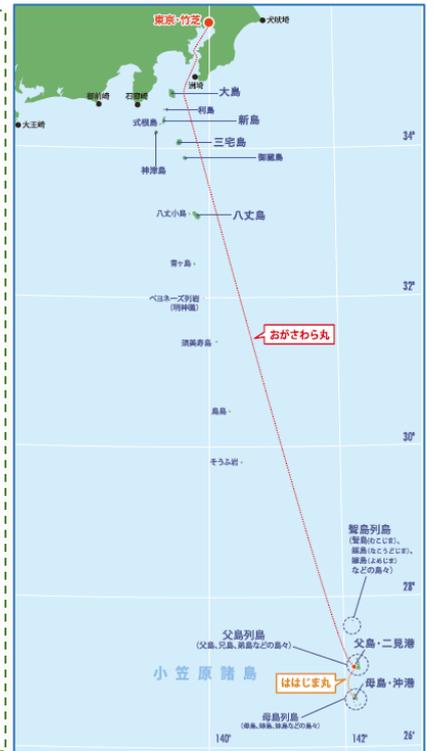
	船舶
父島	竹芝から「おがさわら丸」で 24 時間
母島	父島から「ははしま丸」で 2 時間

★気温、降水量(令和4年)★

観測地	年間平均気温	8月の平均気温	1月の平均気温	年間総降水量
父島	23.9℃	28.6℃	18.2℃	1,841mm
参考：東京	16.4℃	27.5℃	4.9℃	1,615.5mm



©小笠原諸島「おがじろう」



(小笠原海運株式会社パンフレットより引用)

おがさわら丸・ははしま丸 乗船記

11月18日(金) 11時 竹芝客船ターミナルからおがさわら丸 出航。快晴で波も穏やか。



いざ 24+2 時間の船旅へ 出発 期待と緊張でドキドキ



遠ざかるお台場を眺める 潮風を受けて気持ちいい



レストランで昼食
小笠原産トマトソースのオムライス(中央)
たこのからあげ(右) 丸窓から大海原を眺めながら食す



特2等寝台
衛星テレビ付きの快適なベッド
共用シャワーも清潔で使いやすい

11月19日(土) 11時 父島・二見港に到着。12時 ははしま丸 出航。14時 母島・沖港に到着。快晴



ぐっすり眠って目覚めスッキリ
レストランで朝食のあと、売店ドルフィンで
お買い物



朝日の下、風が清々しい
陸地に近づき鳥がたくさん



父島・二見港に到着 待合所でお弁当を食べてから
ははしま丸に乗船 2時間で母島・沖港に到着



母島・沖港の夕暮れ
ゆったり優しい波の音

小笠原村父島字清瀬 ☎ 04998-2-3800

小笠原村診療所は、小笠原村が昭和43年に日本に返還されると同時に、米軍の診療所を引き継ぐ形で村立診療所として開設され、昭和53年に父島字清瀬に移転後、平成22年に近接する現在地に介護施設と一体となった診療所として移転開設されました。

小笠原村では「すべての人が安心して暮らせる村」づくりを一つの指針としており、医療の確保・充実に力を入れております。



診療科目	内科、小児科、外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、産婦人科、精神科、歯科	病床数	9床
医療従事者数	医師3人、看護師9人、助産師1人、薬剤師1人、放射線技師1人、理学療法士1人、臨床検査技師1人、歯科医師1人、歯科衛生士1人、歯科技工士1人		
訪問診療/訪問看護	訪問診療：可、訪問看護：可		
特殊診療	在宅人工呼吸療法、在宅酸素療法、在宅持続陽圧呼吸療法		

● 小笠原村父島 data

- ・都庁からの距離：984km
- ・面積：23.45k m²
- ・人口 (R5.4.1 現在)：2,075 人
- ・訪島者数 (R3 年)：12,374 人

スタッフインタビュー



看護師 山口 莉緒さん

Q どんなお仕事をしていますか？

基本的には外来の患者さんの対応で、時々入院の対応もしています。限られた人数なので、看護業務以外にも、採血の結果を出したり薬のダブルチェックをしたり、夜間や休日には調剤の補助もしています。

Q 初めての業務の習得はどうしていますか？

最初の2週間は先輩看護師が付けて教えてくれますしマニュアルもしっかりしているので安心です。あとは実際にやって、先輩や同僚がやっているのを見て覚えていきます。その都度わからないことを確認して、なるべく自分のものにできるようにしています。



Q 夜勤はありますか？

夜勤はあります。2階に有料老人ホームがあり、その看護師として2交替制のシフト制で入ります。夜間に急患が来院するときは、夜勤の看護師が当番の先生に連絡し、外来の対応をします。入院患者がいる時はその対応もします。老人ホームは、介護士1人と看護師1人の2人で夜勤しているので、看護師が外来対応になっても、介護士が利用者さんを見守ることができる形になっています。

Q こちらの仕事で大変なことはありますか？

船便に合わせてしか物品が入って来ないことと、患者さんが本土の医療機関で高度な治療が必要となった時に搬送に時間がかかることです。

Q 本土の医療機関との大きな違いは何ですか？

ここでは、子供から高齢者まで来院しますが、私は小児を見るのが初めてでした。予防接種の薬剤を注射器で吸い上げて確認するのも本土の総合病院ではやらなかったです。また乳幼児健診にも付いていきます。ここでは初めて経験できることがいっぱいあります。

Q こちらの仕事の魅力はなんですか？

島で過ごしたいというニーズにできるだけ応えるように、診療所や福祉等が関わっていて、通院できなければ訪問看護や訪問診療で、患者さんのニーズに応じて、型にはまらずその人に合った看護や医療を提供できています。そこに看護師も近くで関われるところが魅力です。

Q 父島のオススメを教えてください。

海のきれいな景色はびっくりしました。透き通っているのと夏のキラキラがすごくて。シュノーケリングではテレビでしか見たことのないような空間が広がっていて、吸い込まれそうで本当にびっくりしました。

公立医療機関紹介 ② 小笠原村母島診療所

小笠原村母島字元地 ☎ 04998-3-2115

小笠原村母島診療所は、小笠原村が昭和43年に米国から日本に返還後の昭和47年に村立診療所（鉄骨プレハブ造）として開設され、平成6年に施設の老朽化に伴い移転・開設（鉄筋コンクリート造）し、現在に至っています。

母島は子供の人口が多く活気にあふれており、気候も温暖で、島ぐるみでの活動も多いあたたかな島です。

そんな母島の唯一の医療機関である母島診療所では全ての診療を行い、保健・福祉との連携などは多岐にわたり、地域住民と密接に関わる医療を行っています。



● 小笠原村母島 data

- ・都庁からの距離: 1,033km
- ・面積: 19.88k m²
- ・人口 (R4.4.1 現在): 456人
- ・訪島者数 (R3年): 5,058人

診療科目	内科、外科、産婦人科、小児科、整形外科、皮膚科、精神神経科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科	病床数	4床
医療従事者数	医師1人、看護師2人、助産師1人、歯科医師1人、歯科衛生士1人		
訪問診療/訪問看護	訪問診療: 可、訪問看護: 可		
特殊診療	在宅人工呼吸療法、在宅酸素療法		

スタッフインタビュー



医師 徳野 隼人 先生

Q 超遠隔離島である母島に赴任して

母島は若い世代の方が多いので活動的な印象です。島民の皆さんは診療所に気を遣ってくださって、時間外の電話での問い合わせなどが少ないですね。それなので、夜や休日に連絡が来るというのは、何か差し迫ったものがあると考えて対応するようにしています。

Q 母島診療所の役割は？

一般的な疾患の慢性期の管理と急性期の怪我や疾病の対応などの他、予防接種や健康についての相談を受けたりもします。また学校の校医等も行います。患者さんの年齢に係わらず病気の種類も問わず対応しています。

本土の病院に勤めていた時と比べて、患者さんの普段の生活がとても良く見える立場にいたことが大変貴重なことに感じます。病院ではどうしても病気の状態にフォーカスしてしまいがちですが、ここでは患者さんの病気以外の社会的な様子も知ることができます。また、島唯一の診療所で一人だけの医師なので、良いことも悪いことも全てフィードバックとして得られることがおもしろいですし、やりがいがありますね。

Q 診療所の一日のスケジュールを教えてください

外来診療は概ね平日午前中で、水曜日だけ午後にもあります。水曜以外の午後には、会議や訪問診療等を行います。また、高齢の方々にはデイサービス後に診療所まで送迎で来てもらい個別に対応しています。

外来では、できるだけ事前に記録等を見返して経過を把握するように努めています。

また、患者さんへの説明も丁寧に少し時間を掛けて説明するように心掛けています。



Q 大変なことはありますか？

自分がよく知らない分野でも何かしらのアクションを起こさなければならない時は負担に感じることがありますが、その都度、都立広尾病院や専門医の先生に相談できる環境になっていて、島内でできる検査もある程度整っているので、すごく負担になるということはありません。重症の患者さんが出た時も自分一人でやらなければならないのですが、そのときのためにシミュレーションを考えたりしています。

(前ページから続く)

Q 休日の過ごし方やオススメの食べ物は？

あまり島らしいことをしていないのですが、ちょっと気温が落ち着いた午後や夕方にふらっと脇浜公園などを散歩するだけでも気持ちが良いです。赴任中は基本オンコールなので通信圏外になるようなマリナクティビティー等はできないため、通信電波が届く範囲でのんびりしています。

食べておいしかったのはウミガメの刺身とウミガメの生レバーです。捕れる時期と頭数が限られているので、とても貴重です。また、ウミガメの亀煮は、父島と母島の両方で食べられるのですが、それぞれで味付けが違うので食べ比べてみるのもオススメですね。野菜ではトマトが果肉が多くて甘いです。その他にも、農業が盛んなので新鮮な野菜や南国的なフルーツがおいしいですね。

Q 母島での医療に興味のある方へ

離島での医療って何か大変そうだなとか、よくわからないなと思うかもしれませんが、実際に来てみると島民の皆さんは優しいですし、のんびりできる部分もあります。興味がある方は見学からでも良いですし観光でいらしても良いので、ぜひ診療所にいらしてください。大歓迎です。



看護師（助産師） 森 純子 さん

Q 本土の医療機関との大きな違いは何ですか？

ここでは最後まで責任を持てるところが大きいですね。昔の医療制度は長期入院が可能で、患者さんとも家族みたいな感じになれて、残念ながら亡くなられたら号泣して、という感じでした。それが医療法の改正で、2週間の入院とかになって、亡くなった患者さんの名前もわからなくて、朝礼で言われて、誰それみたいな。それで面白くなくなってしまう、国際協力機関に参加してから小笠原に来たんです。

ここでは本土とは逆に、全てを把握できて。要は全責任を負わないといけないというプレッシャーはありますが、とても楽しいです。それに、本土の医療機関にいた時よりもいろいろな病気の患者に接するので、看護スキルや医療知識も増えました。



Q 研修などはどうしていますか？

研修は、東京都看護協会が島しょの看護師のやりたい研修テーマの希望を取った上で、講師を呼んで、島しょの看護師に集合掛けてやってくれるんです。今度も介護をテーマにやってくれる予定だそうです。

また、普段の診療でも医師との距離が近いからすぐに教えてくれますし、急患で本土への搬送症例が出たらみんなで振り返りをして、その治療の目的は何ですか、などのディスカッションができるので、勉強量としては不足はしていないと思います。

Q 本土への急患搬送について

父島・母島は本土までの搬送に数時間かかるので、その時間に対する患者さんへの責任があります。例えば緊急性の高い心筋梗塞などは、医師や看護師など全員で対応しています。心筋梗塞がわかった時点で他の外来を止めますから、島の人もわかった、大変なんだね、と理解してくれます。

Q 母島の良いところやオススメを教えてください。

母島は島民の人柄が良いです。離島にはのんびりした島のイメージがあるかと思いますが、本気でのんびりしていると思います(笑)。週1回の船便しかないなので、何でも、まあ仕方がないじゃん、船来なかったし、という感じで。ゆっくりのんびりしているところが好きです。

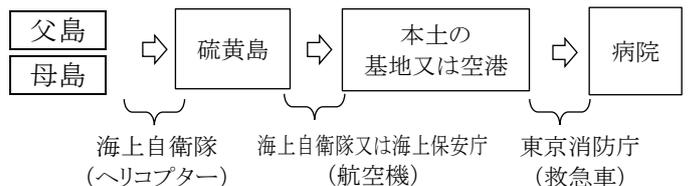
～ 小笠原諸島からの救急患者搬送について ～

東京から約1,000km南に位置する超遠隔離島の父島・母島では、島の診療所では対応できない救急の患者が発生した場合は、東京都を通して、海上自衛隊に患者の搬送を要請し、都内の病院へ搬送します。近年は、令和2年3月に東京都と海上保安庁の間で患者搬送に係る相互協定が締結されたため、海上自衛隊と海上保安庁の連携による搬送も増えています。



ヘリポート(母島)

【搬送経路】



【搬送人数(令和4年度)】 20人(感染症法上の移送の患者1人を含む)

皆様はじめまして。

令和5年4月よりへき地医療支援機構専任担当医師を拝命いたしました徳野愛(とくのまな)と申します。私も自治医科大学を卒業し、3年間の研修後、三宅島、父島でそれぞれ1年ずつ勤務させていただきました。

へき地医療では限られた医療資源の中で子供から大人まで幅広い分野の疾患に対応することになり、苦勞することも多々ありました。一方で、島では医療・福祉の連携が密であり、皆で協力してきめ細やかな医療を提供することもできました。患者さんとの距離が近く、疾患のみならず、その人の生活や人生にもかかわることのできる非常にやりがいのある現場だと思います。「東京都へき地医療支援機構通信」では、皆様に少しでもへき地医療に興味をもっていただけるよう、へき地医療の現状ややりがいなど、へき地医療の普及啓発のため、様々な情報を発信しております。

今後ともご愛読のほどよろしくお願いいたします。



《プロフィール》

徳野 愛 自治医科大学卒業
令和2年東京都入庁
福祉保健局感染症対策部勤務中

～ 東京都へき地医療支援機構 無料職業紹介事業所 よくあるお問合せ ～

Q へき地の診療所で働いてみたいと思っています。どのような手続きを行えばよいですか？

A まずは、無料職業紹介事業所への登録をお願いします。登録用紙はホームページに掲載していますので、必要事項を記入後、郵送又は電子メールでご提出ください。ホームページをご覧いただけない方は、無料職業紹介事業所までお電話でお問合せください。なお、将来的にへき地勤務を希望する方についても登録を受付けていますので、お気軽にお問い合わせください。

東京都へき地医療支援機構 無料職業紹介事業所

へき地医療機関での勤務にご興味のある方は、ぜひ、東京都へき地医療支援機構が運営する無料職業紹介事業所のホームページをご覧ください。

https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryo/iryo_hoken/ritousankan/hekiti_shokai.html



Q 代診医登録とはどういった制度ですか？登録している人数や1回の従事期間を教えてください。

A 代診医とは、へき地の公的医療機関に勤務する医師が研修・休暇等で勤務地を一時的に離れる場合に、臨時で代替勤務をする医師のことです。東京都では、へき地町村の要請に基づき、都立病院等の医師や事前に登録いただいている医師に調整を行い、代診を依頼しています。代診医にご協力いただける医師の方は、資格の確認ができる書類等をご準備の上、ぜひ登録をお願いします。手続きの詳細は無料職業紹介事業所のホームページをご覧ください。

○ 代診医登録人数：70人(令和5年3月31日現在)

○ へき地町村からの要請期間は、移動時間を含めて概ね4日間から15日間程度です。一部期間であれば協力いただける場合でも調整可能です。

Q 離島の医療機関の見学は可能ですか？

A 観光などで訪島される際の見学については、訪島前に各医療機関にお問合せをお願いします。

この他、島しょ町村が主催する『医療従事者向け現地見学会』に参加することもできます。現地見学会では参加するために必要な旅費を補助しており、開催予定は東京都福祉保健局の「東京の離島・山間地医療」のホームページでもお知らせします。この機会に是非、現地に足を運んで、島での医療、島での暮らしに触れてみてはいかがでしょうか。



編集・発行

東京都へき地医療支援機構(東京都 福祉保健局 医療政策部 救急災害医療課 医療振興担当内)

【電話】03-5320-4428 【Fax】03-5388-1441 【E-mail】S0000299@section.metro.tokyo.jp

【HPアドレス】 http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/joho/shokuin/tousyo_bosyu/index.html

ご意見・ご感想をお寄せください